

2024年3月期  
決算説明資料

2024年6月14日



**TOYO REBORN 3**

- 2024年3月期 決算概況
- 中期経営計画 「TOYO REBORN 3」 進捗状況
- 2025年3月期 決算見通し
- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について
- その他トピックス
- appendix

**TOYO**Shutter

2024年3月期 決算概況

## 国内経営環境

### 国内経済

社会経済活動の正常化が一段と進む中、景気は総じて緩やかに回復しているが、不安定な国際情勢、原材料・エネルギー価格の高騰、物価の上昇等により依然として先行きは不透明な状況



### 建設市場

建設資材価格の高騰や人手不足の影響が続くものの、建設投資需要は一定の水準を確保

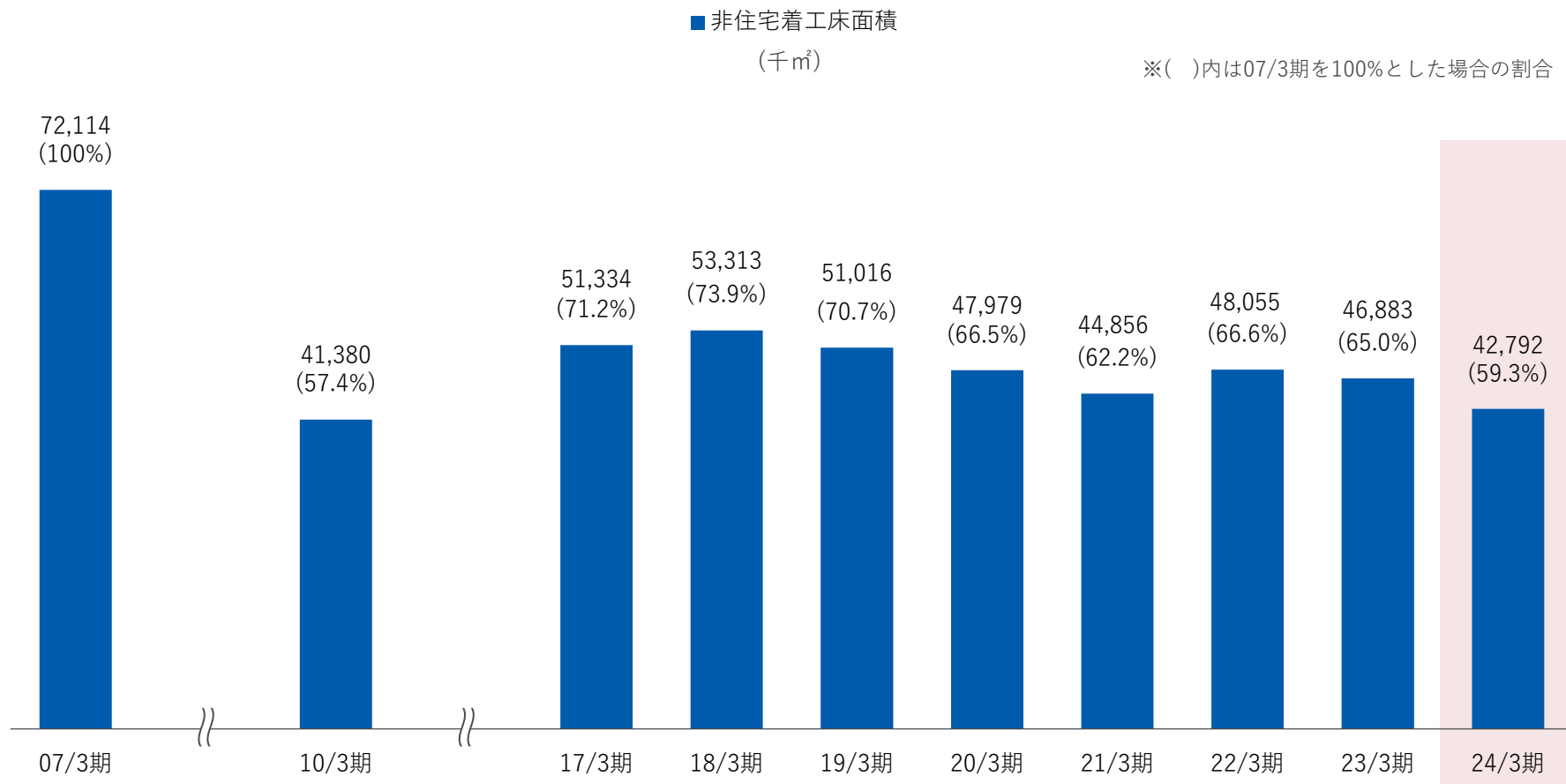


### シャッター市場

民間設備投資需要は持ち直しの動きがみられるが、大型物流倉庫需要に一巡感がみられる中で大型物件における受注競争は依然激しく、鋼材など原材料価格の高止まりも相まって事業環境は引き続き厳しい

- 非住宅着工床面積は、前期比8.7%の大幅減少
- 市場を牽引してきた大型物流関連施設の着工に一服感

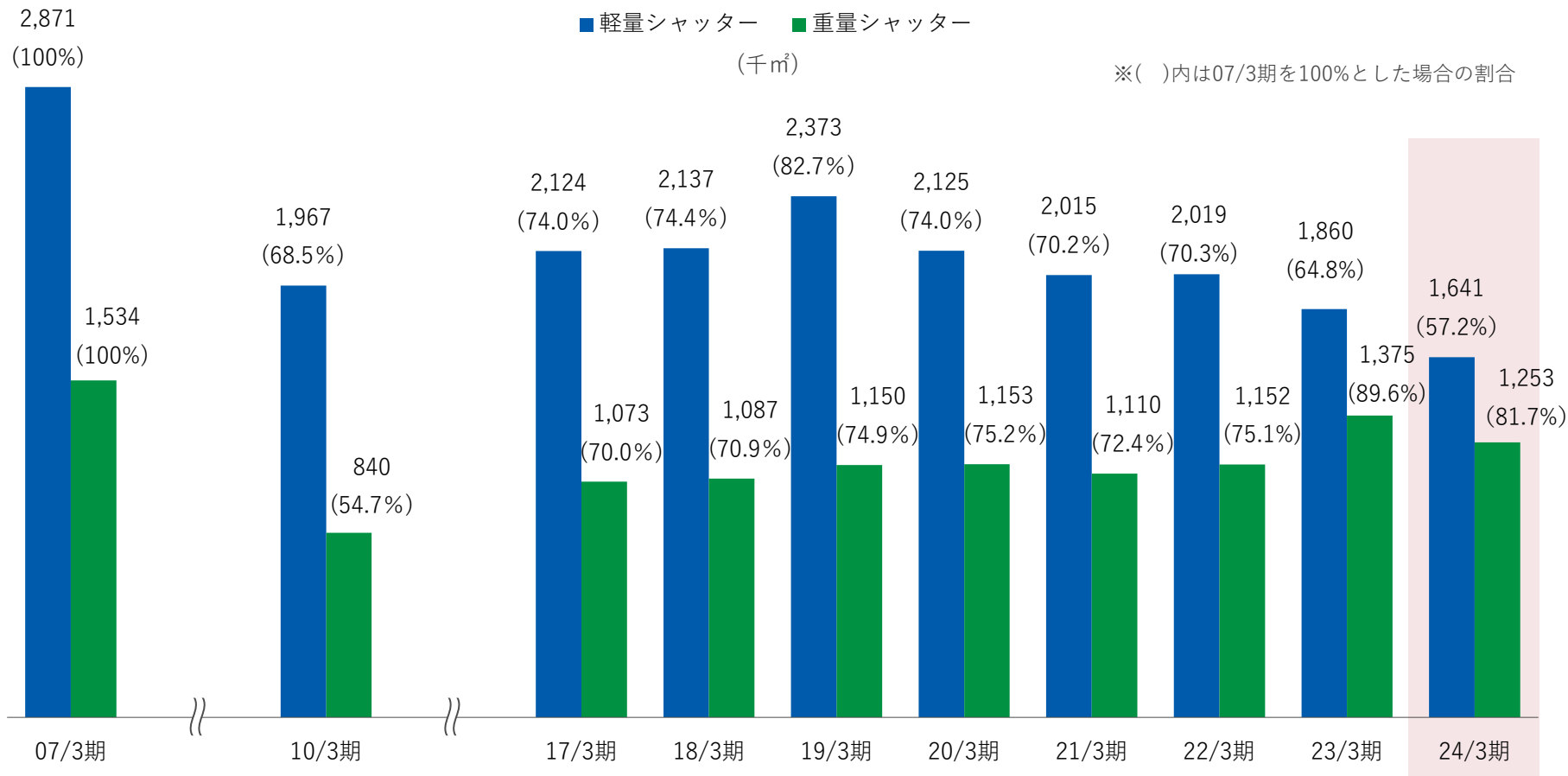
非住宅着工床面積の推移



(資料) 国土交通省、(財)建設経済研究所資料より推計

- 軽量シャッターは、建設資材高騰が小口案件に影響し前期比11.8%減少
- 重量シャッターは、大型物流施設案件が一服したため前期比8.9%減少

JSDA（日本シャッター・ドア協会）集計 生産数量推移



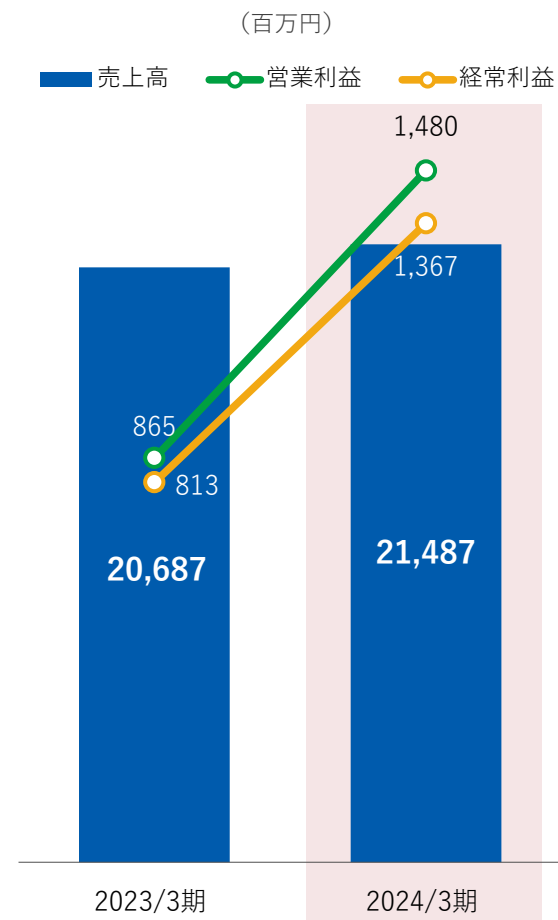
(資料) J S D A 生産数量より推計

- 原材料価格高騰の中、期初は前期実績並みの計画でスタート
- 想定以上に価格転嫁が進み、メンテ部門の好調も相まって利益面で修正計画を大幅に上回る着地

(百万円)	2023/3期	2024/3期			
	実績	期初計画	修正計画 (1/30公表)	実績	期初計画比
売上高	20,687	20,000	22,000	<b>21,487</b>	+1,487
営業利益	865	900	1,200	<b>1,480</b>	+580
経常利益	813	850	1,100	<b>1,367</b>	+517
親会社株主に帰属する 当期純利益	559	560	750	<b>959</b>	+399
1株当たり 当期純利益 (EPS)	88.24円	88.40円	118.40円	<b>151.50円</b>	+63.10円

- 価格転嫁の進捗により売上高は前期比3.9%の増収
- 売上総利益率が、採算重視の営業戦略と価格転嫁の進捗で3.7ポイント大幅改善
- 人的資本投資等で販売管理費が359百万円増加も、営業利益は前期比615百万円の大増益

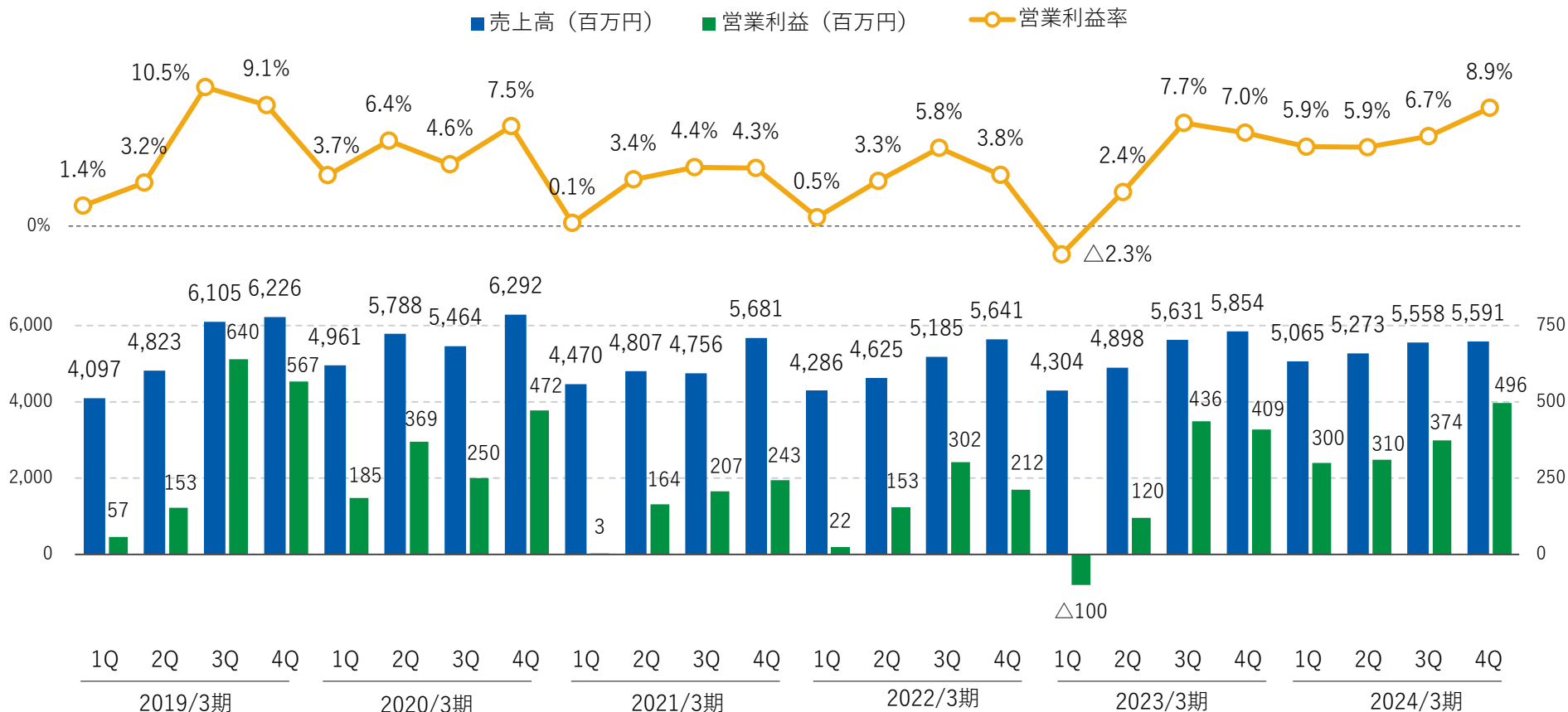
(百万円)	2023/3期	2024/3期		
	実績	実績	前期比	
売上高	20,687	<b>21,487</b>	+800	+3.9%
売上原価	15,651	<b>15,476</b>	△175	△1.1%
売上総利益	5,036	<b>6,011</b>	+975	+19.4%
利益率	24.3%	<b>28.0%</b>	-	+3.7pt
販売管理費	4,171	<b>4,530</b>	+359	+8.6%
営業利益	865	<b>1,480</b>	+615	+71.2%
利益率	4.1%	<b>6.9%</b>	-	+2.7pt
経常利益	813	<b>1,367</b>	+554	+68.1%
利益率	3.9%	<b>6.4%</b>	-	+2.5pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	559	<b>959</b>	+400	+71.7%
減価償却費	360	<b>355</b>	△5	△1.4%





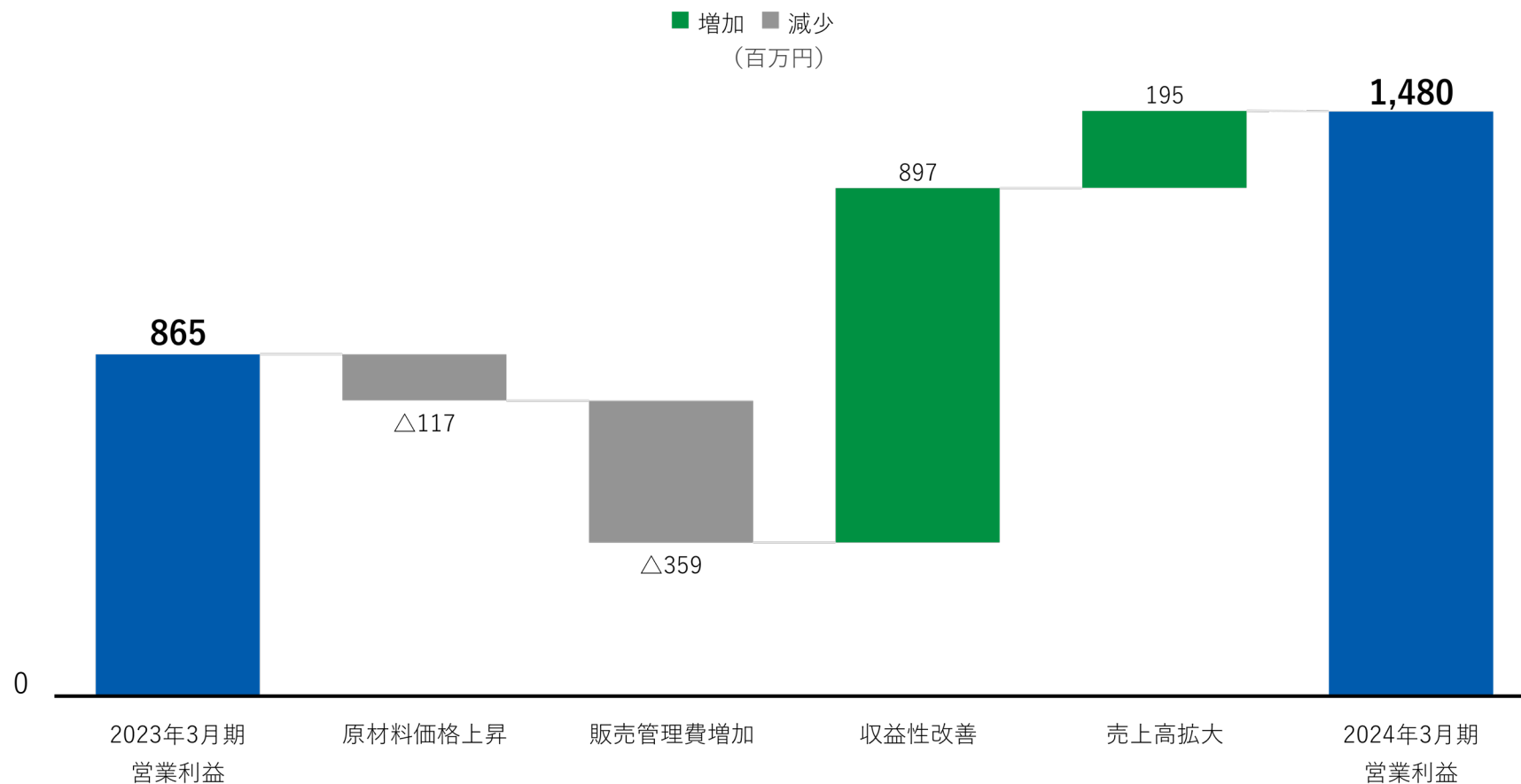
- 選別受注の戦略が奏功し、例年に比べ上期から堅調に推移
- 特に第4四半期の採算改善が想定以上に進捗したため営業利益が大幅伸長

(ご参考) 四半期売上高・営業利益の推移



- 減益要因：原材料価格の上昇による影響は高値安定を背景に117百万円まで減少  
従業員処遇改善を中心とした人的資本投資等により販売管理費は359百万円増加
- 増益要因：収益性改善と売上高拡大の効果により前期比615百万円的大幅増益

営業利益増減要因

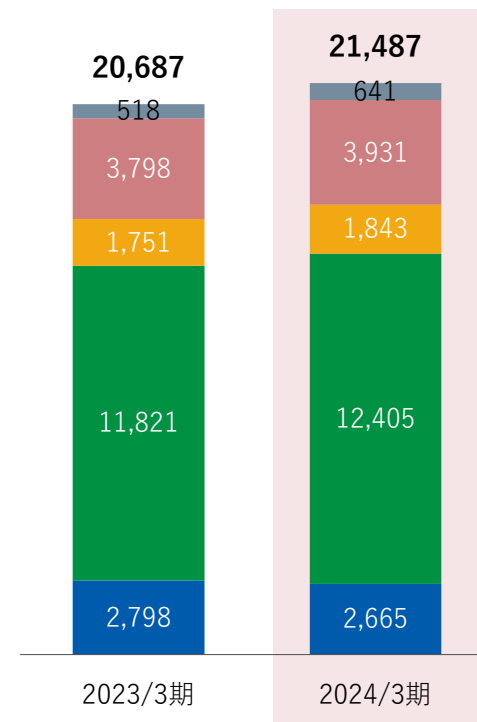


- 軽量シャッターは、前期比4.8%減少
- 重量シャッターは、前期比4.9%増加
- スチールドアは、前期比3.5%増加

## 全製品別売上実績

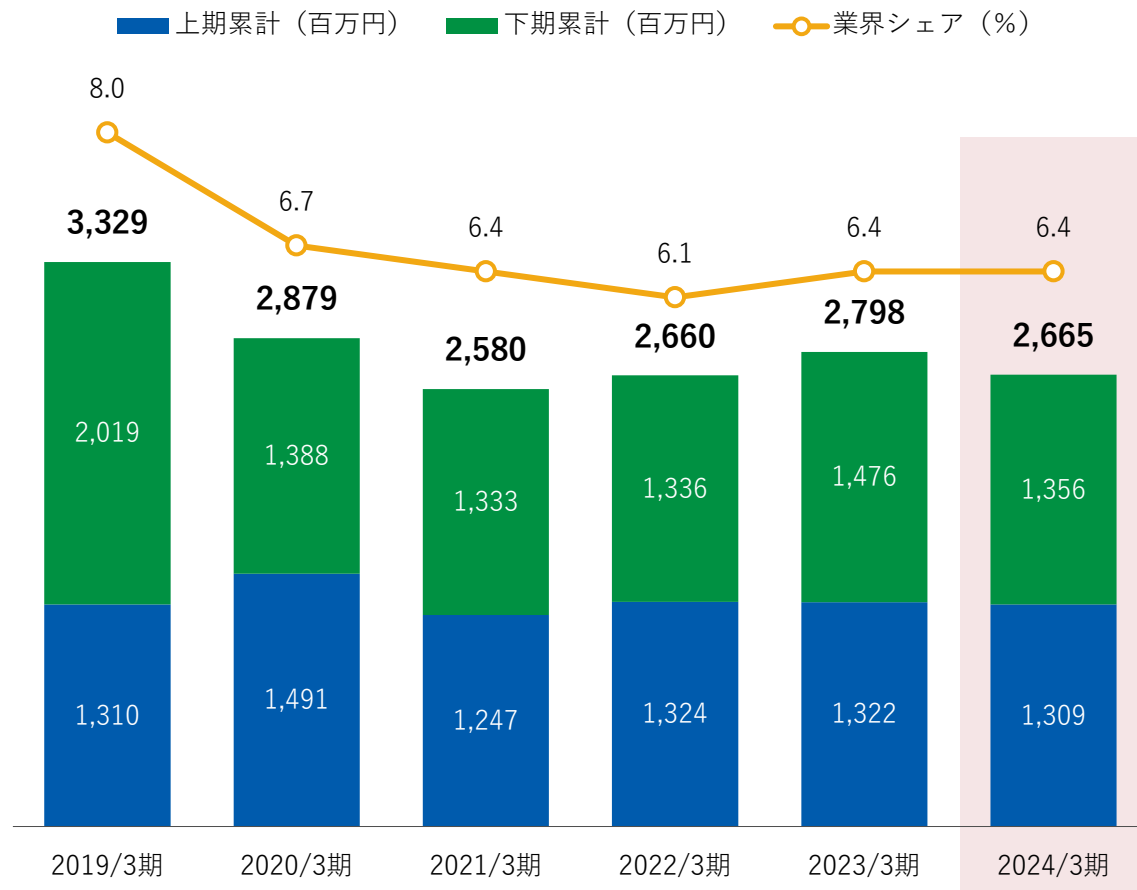
(百万円)	2023/3期	構成比	2024/3期			
			実績	構成比	前期比	
軽量シャッター	2,798	13.5%	<b>2,665</b>	<b>12.4%</b>	△133	△4.8%
重量シャッター	11,821	57.1%	<b>12,405</b>	<b>57.7%</b>	+584	+4.9%
シャッター関連	1,751	8.5%	<b>1,843</b>	<b>8.6%</b>	+92	+5.2%
スチールドア	3,798	18.4%	<b>3,931</b>	<b>18.3%</b>	+133	+3.5%
建材他	518	2.5%	<b>641</b>	<b>3.0%</b>	+123	+23.9%
合計	20,687	100%	<b>21,487</b>	<b>100%</b>	+800	+3.9%

■ 軽量シャッター
 ■ 重量シャッター  
■ シャッター関連
 ■ スチールドア  
■ 建材他
 (百万円)



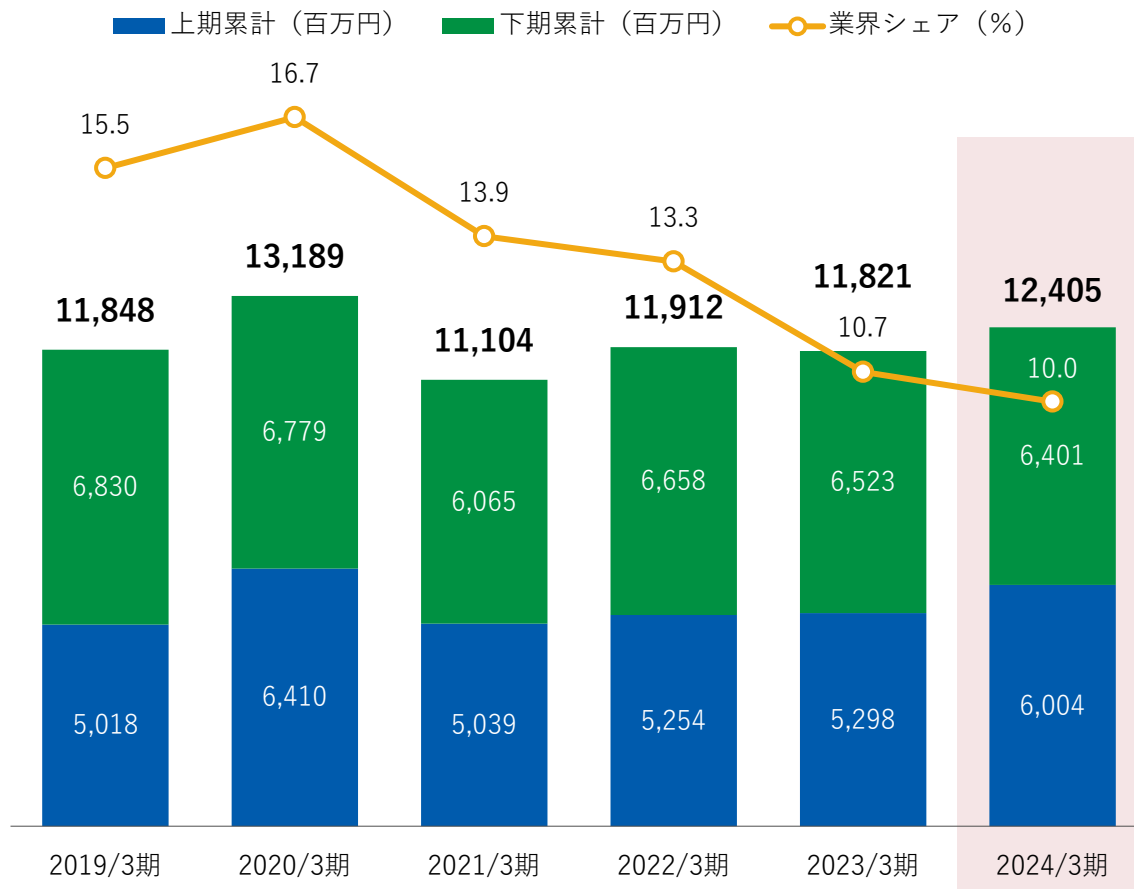
- 中期経営計画における重点商品として取組み強化
- 業界全体の小口需要の落ち込みの影響を受けて売上高は減少も業界シェアは維持

## 軽量シャッター



- 大型物流倉庫の需要が落ち着く中で、採算重視の受注により数量と業界シェアは低下
- 売上高は販売価格水準の改善により増加

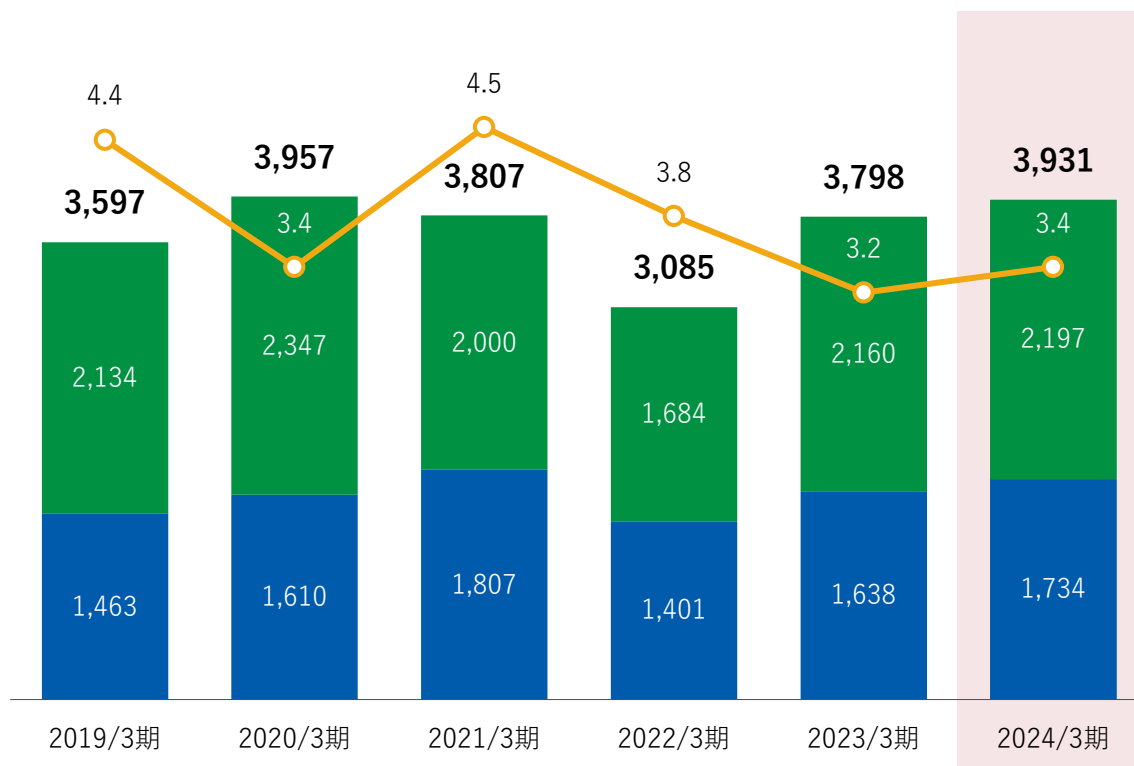
## 重量シャッター



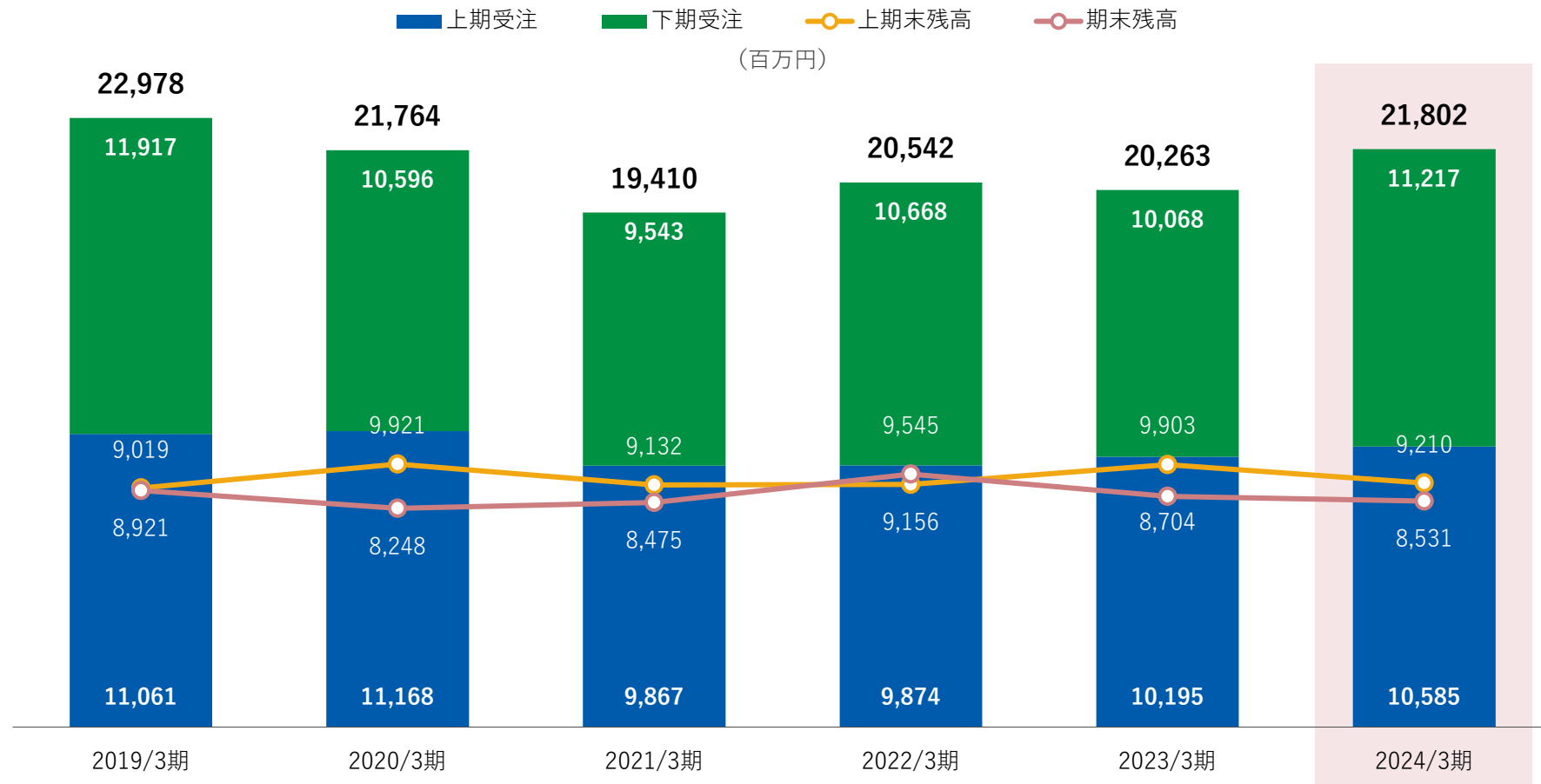
- 都市部を中心とした再開発案件の順調な完工によって堅調に推移
- 付加価値の高い新製品投入の寄与もあり売上高が増加

## スチールドア

■ 上期実績 (百万円) ■ 下期実績 (百万円) ○ 業界シェア (%)

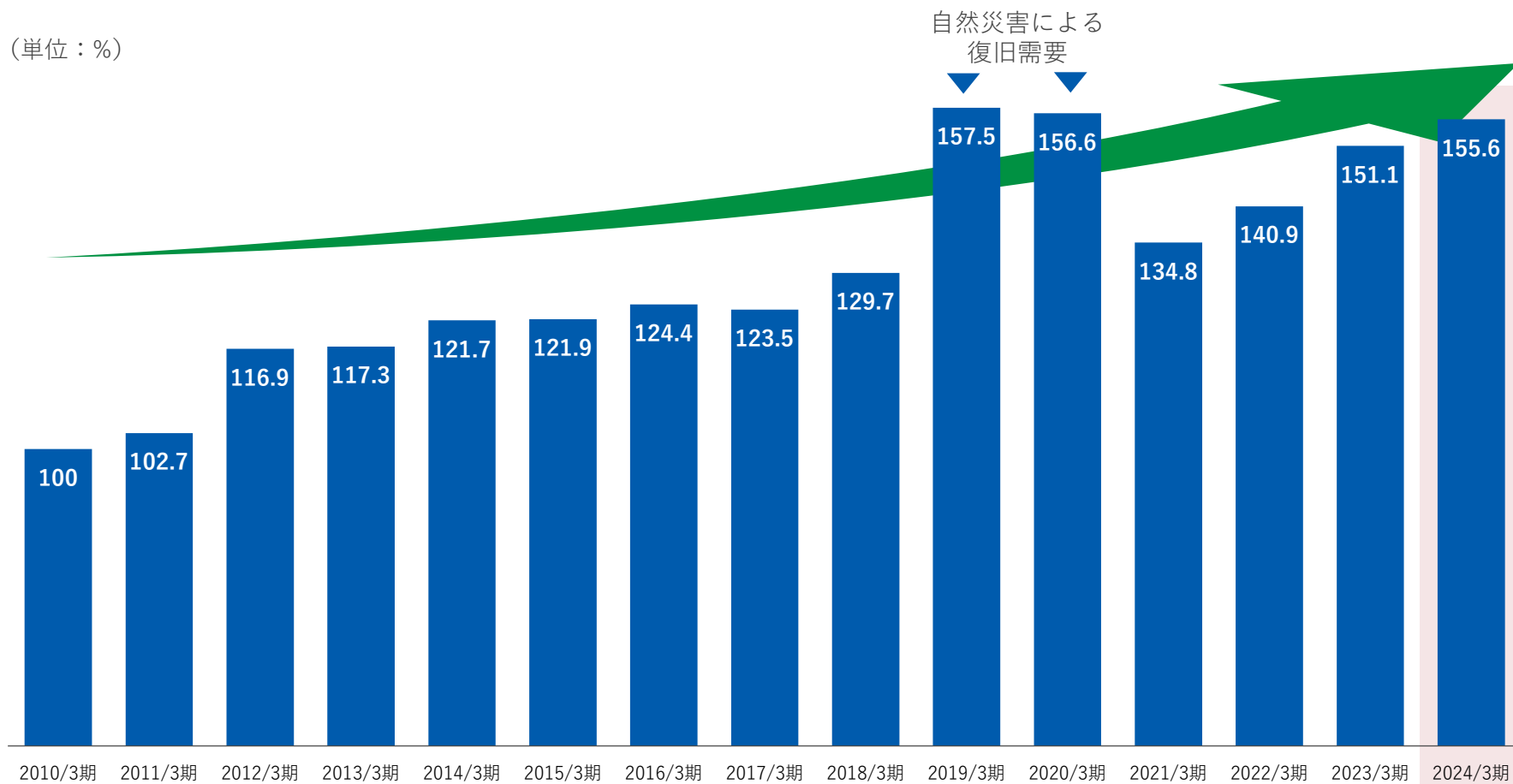


- 受注実績は、前期比7.6%の増加
- 期末残高は、採算重視の受注活動により金額・数量ともに減少



※受注実績・受注残高は、工事進行基準適用前の金額

- 過去最高水準に匹敵する実績
- 原材料高騰に対抗できる収益部門として今後も継続的に強化



\* 2010/3期を100とした場合の売上高の推移



- 営業活動CF：税金等調整前当期純利益の増加によるもの
- 投資活動CF：固定資産の取得による支出の増加によるもの
- 財務活動CF：長期借入れによる収入によるもの

## キャッシュ・フロー計算書

(百万円)	2023/3期	2024/3期
期首現金・現金同等物残高	2,945	<b>3,479</b>
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,124	<b>1,542</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△141	<b>△146</b>
フリーキャッシュ・フロー	983	<b>1,396</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	△448	<b>△177</b>
期末現金・現金同等物残高	3,479	<b>4,699</b>



**TOYO REBORN 3**

中期経営計画「TOYO REBORN 3」進捗状況

## 経営理念

私たちは企業品質の向上を目指し、  
安全・安心・快適・感動を提供するとともに、  
持続可能な社会づくりに貢献します

## スローガン

意識・行動・習慣を見直し全社一丸  
あらゆることに挑戦します

## 経営ビジョン

### 社会への貢献

「防ぐ」をキーワードに、ユーザーのいまと未来を守ります

### 企業力を磨く

社会から常に必要とされる企業となるために、強靱な企業基盤を構築します

### 変革への挑戦

あらゆることを一から見直し、「BEST」な企業品質を追求します

### 人財の育成

熱意と誇りを持ち、お客さまに信頼される企業人を育成します

現在は、先行きを見通せない「不安定と変化の時代」

非住宅着工床面積は4年ぶりに前年比プラスに転じるも、力強さに欠ける

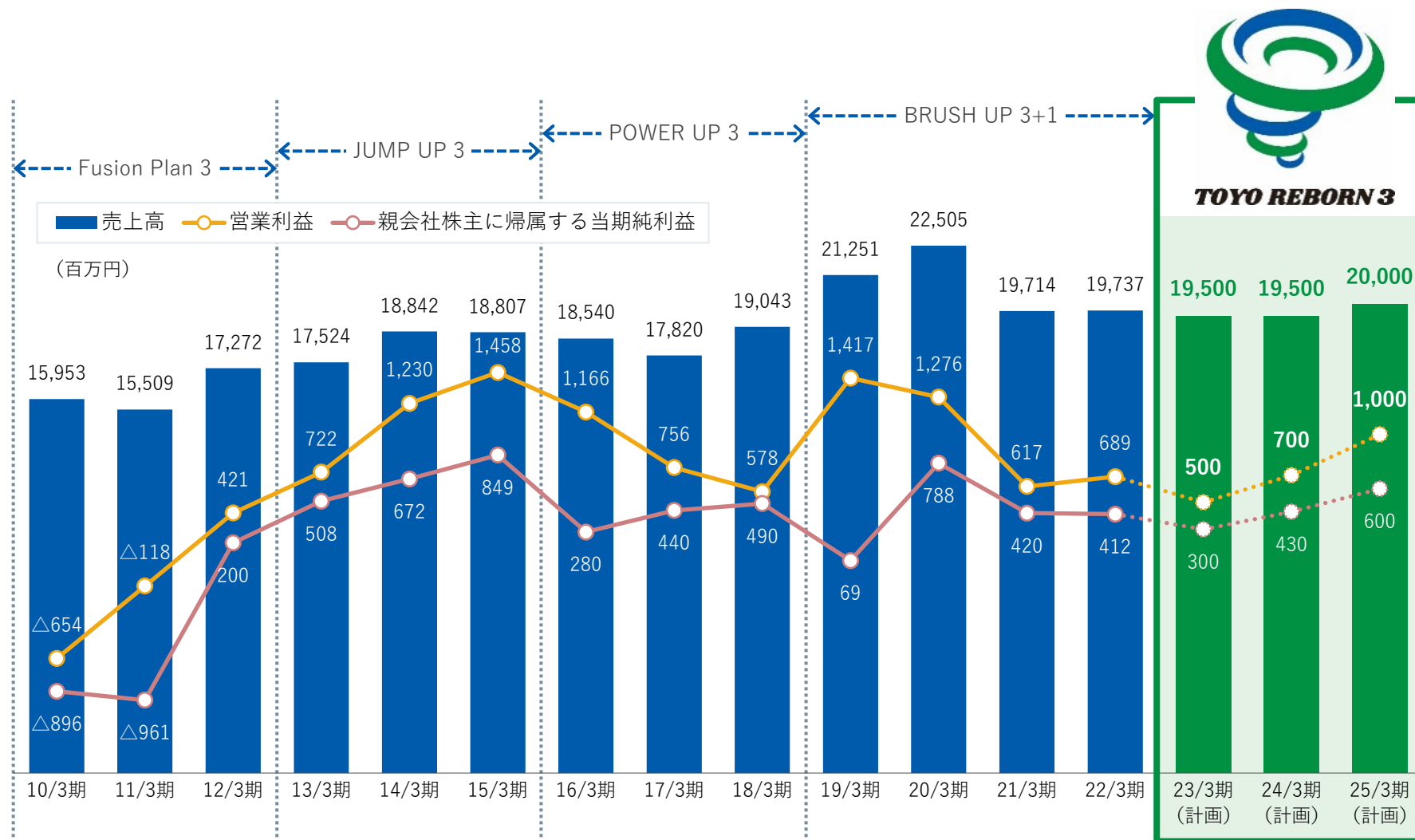
建設資材価格の更なる高騰が予想される

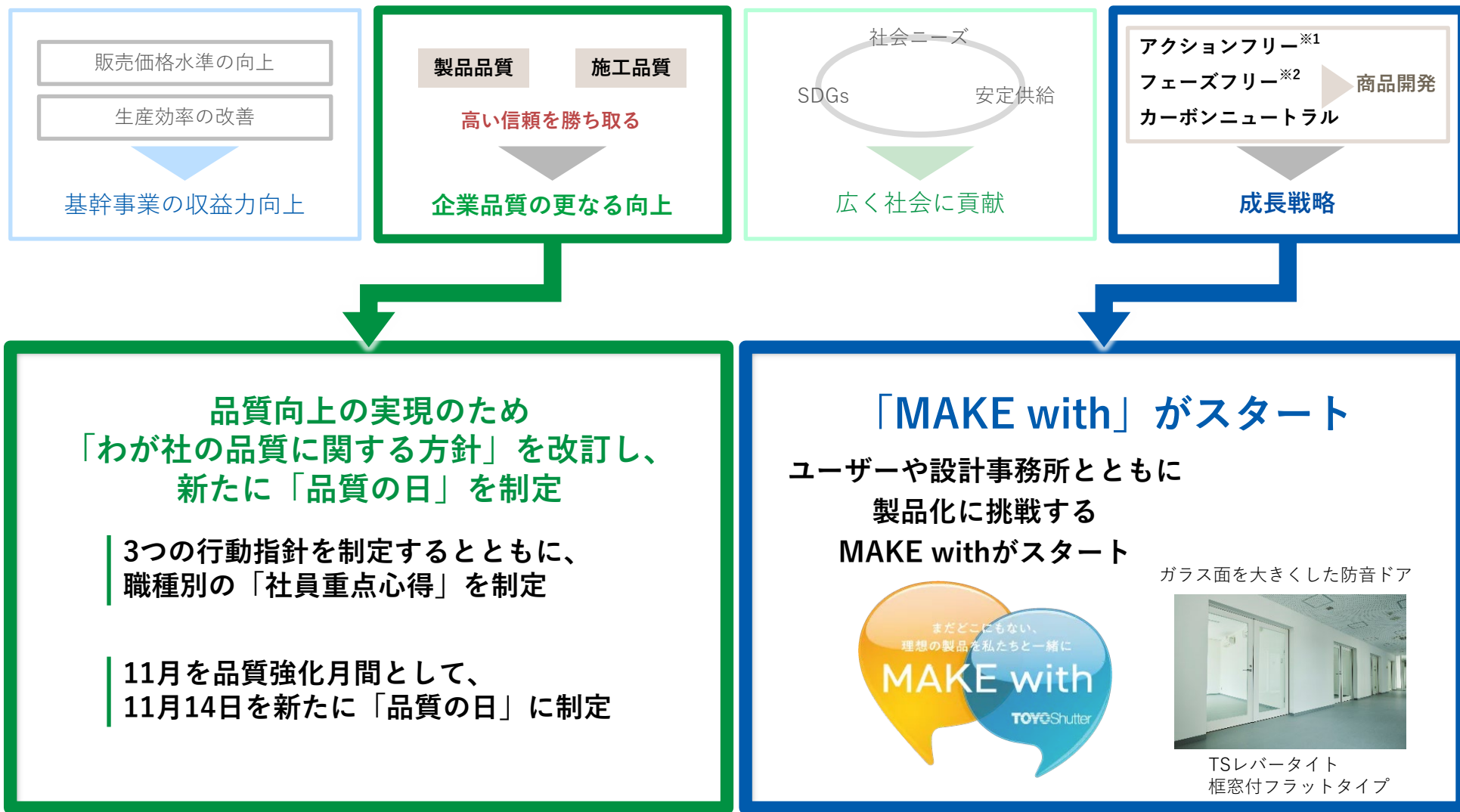
企業の景況感は足踏み状態であり、  
加えてサプライチェーンの不安定化が予想される

拡大志向の中期経営計画を策定するには前提条件があまりにも不安定

企業品質向上と基幹事業の収益性向上を実現するため、  
意識・行動・習慣を見直し「生まれ変わる（REBORN）」を合言葉に、  
本中計の経営理念のもと経営ビジョン・経営目標・重点施策の遂行  
および達成に全社一丸となって挑戦

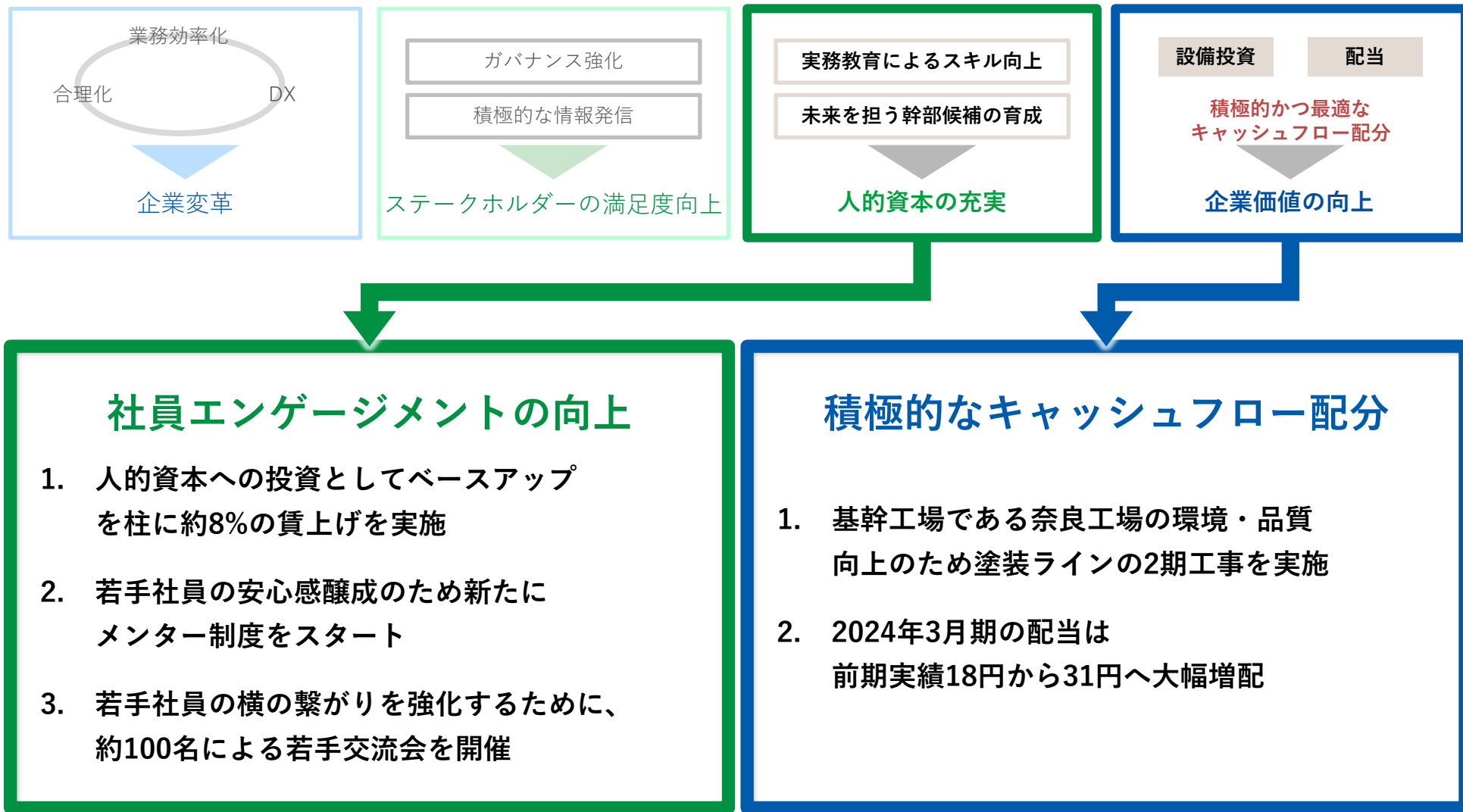
- 2010年3月期以降の中期経営計画実績は、概ね順調に推移
- 過去経験のない原材料高騰の影響を受けながらも、最終年度は営業利益10億円を計画





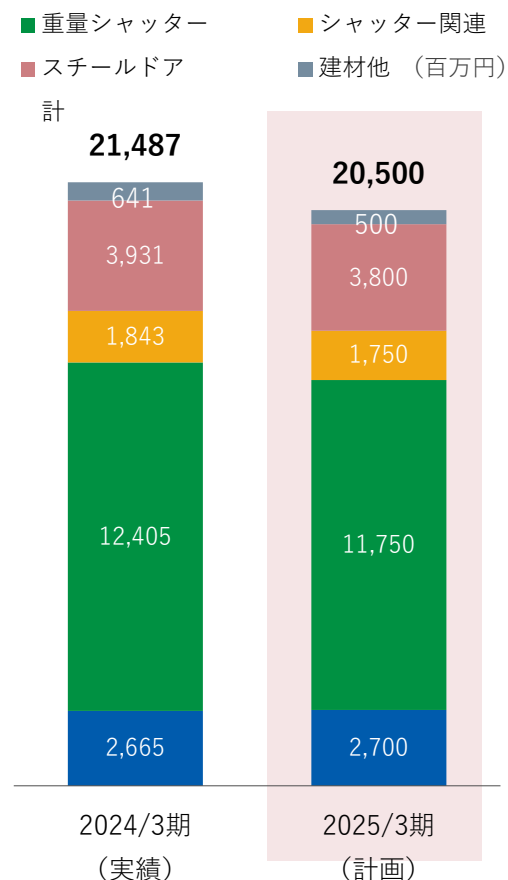
※1：追加操作不要で性能を発揮する弊社製品シリーズ

※2：一般社団法人フェーズフリー協会の審査により、平常時や災害時などのフェーズに関わらず、役立つ商品・サービスに与えられる認証



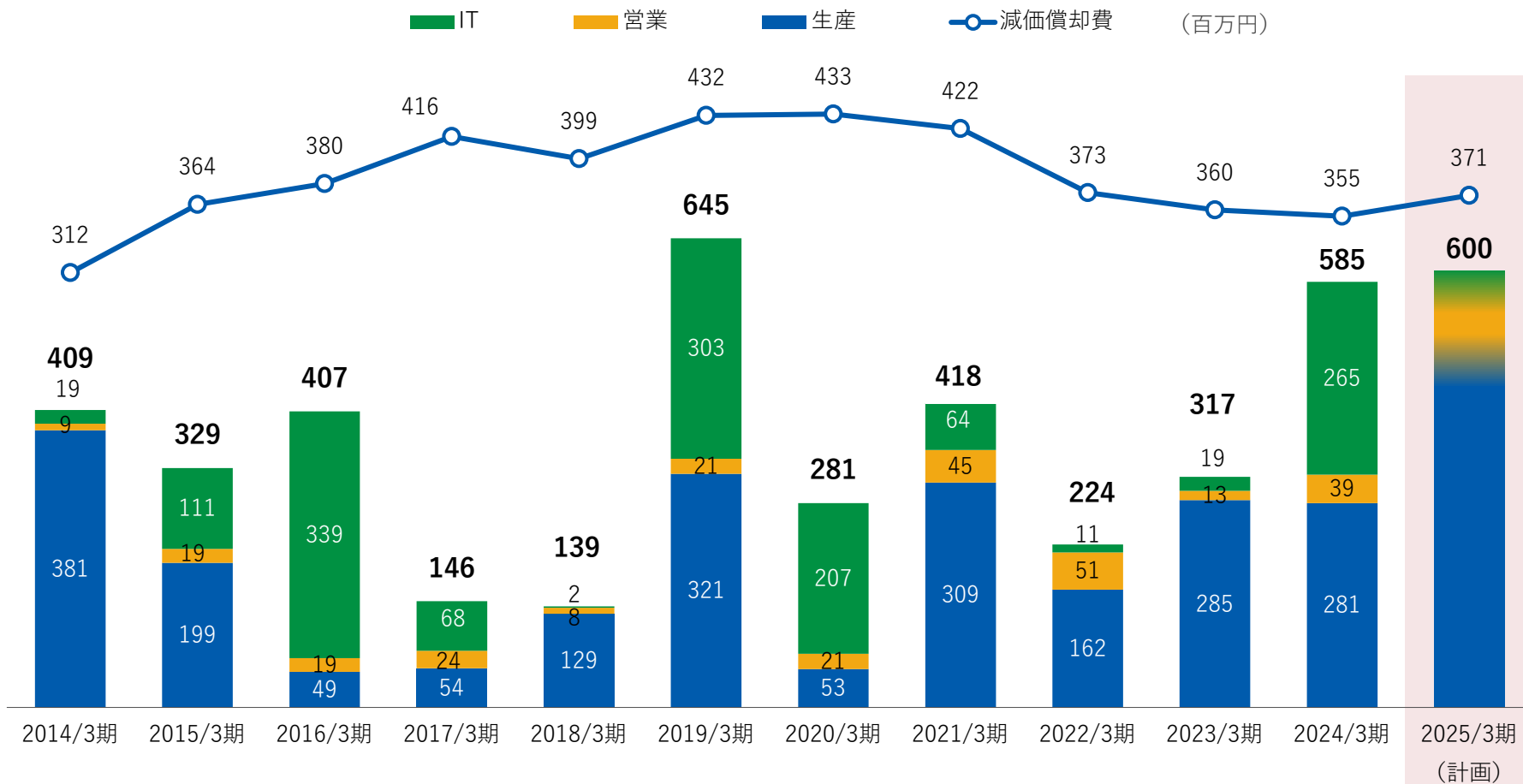
- 非住宅着工床面積は前年並みで推移するものと予測
- 前期同様に採算重視の受注活動を継続する予定につき若干の減収を見込む
- 利益面は協力業者からの値上げ要請対応、運送コストの増加、人件費の増加が見込まれるも、前期並みを維持する計画

(百万円)	2024/3期 実績	2025/3期 計画
売上高	21,487	<b>20,500</b>
軽量シャッター	2,665	<b>2,700</b>
重量シャッター	12,405	<b>11,750</b>
シャッター関連	1,843	<b>1,750</b>
スチールドア	3,931	<b>3,800</b>
建材他	641	<b>500</b>
営業利益	1,480	<b>1,450</b>
利益率	6.9%	<b>7.1%</b>
経常利益	1,367	<b>1,350</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	959	<b>900</b>





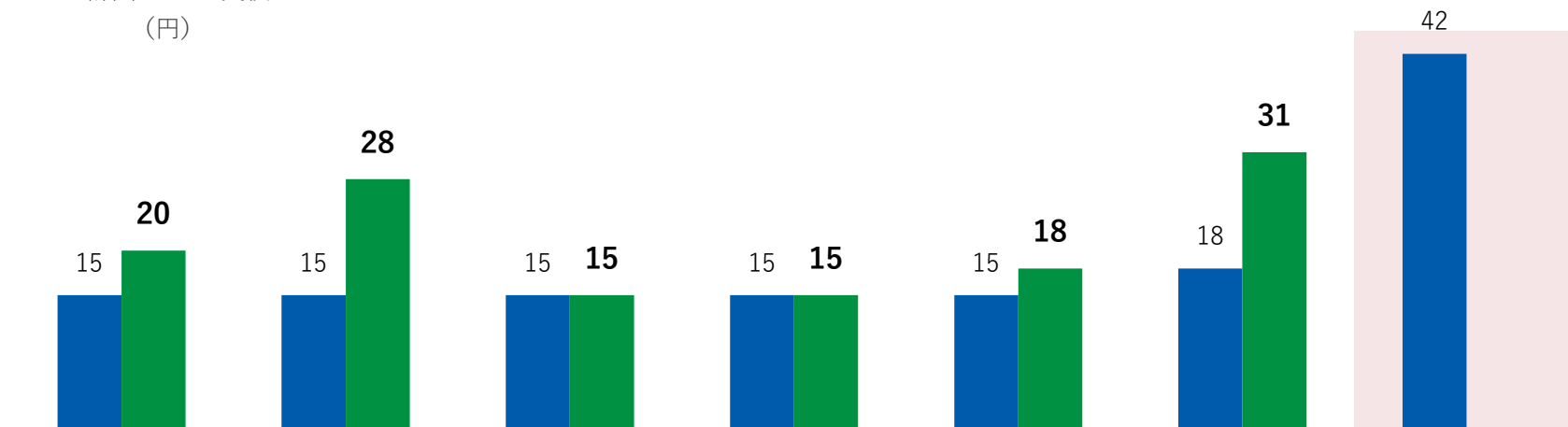
- 2024年3月期はほぼ予定通り約600百万円の設備投資を実行
- 2025年3月期も品質向上に向けた生産設備刷新を中心に年間600百万円を計画



※投資にはリースの実行額を含む

- 2024年3月期は大幅増益を反映し前期比13円増配の31円
- 2025年3月期も、配当性向の引上げに伴い更に11円増配の42円を計画

■ 計画 ■ 実績  
(円)



	2019/3期		2020/3期		2021/3期		2022/3期		2023/3期		2024/3期		2025/3期
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	
通配当期金	15円	<b>20円</b>	15円	<b>28円</b>	15円	<b>15円</b>	15円	<b>15円</b>	15円	<b>18円</b>	18円	<b>31円</b>	<b>42円</b>
配当性向	31.7%	<b>182.5%</b>	23.8%	<b>22.5%</b>	21.1%	<b>22.6%</b>	22.1%	<b>23.0%</b>	22.1%	<b>20.4%</b>	20.4%	<b>20.5%</b>	<b>29.6%</b>

従業員の自立と成長を積極的に支援、活躍できる基盤構築を推進

更新取組

新規取組

## 人材育成・強化

### 将来を担う世代の育成

- 社長が直接経営ノウハウを伝授
- 「社内短期留学制度」による視野の拡大と人事交流
  - 第4クールまで累計11名実施
- 中期経営計画の浸透
  - 幹部社員主催による拠点別の中計討論会を開催

### 育つ環境づくり

- 新入社員成長サポートのためのメンター制度導入
  - 2024年度より導入済
- 若手交流会2回実施

### キャリア採用の促進

- 広範な分野で外部専門人材を積極的に獲得
- エリア限定社員制度の導入検討

## エンゲージメントの向上

### 多様性を尊重

- 女性の活躍を促進
  - 女性社員のみで開催する「女性活躍推進研修」を3回にわたり開催

### ワークライフバランスの充実

- 育児・介護への支援
- 男性の育児休業取得を推進
  - 「産後パパ育休」2023年度取得率50%

### 働きやすい環境を整備

- コミュニケーションの取りやすい職場環境
  - 9拠点にてファシリティを刷新
- エンゲージメントサーベイを実施
- 定年延長の検討に着手
- 全社モバイル化の実現
- ベースアップを柱に賃上げ

# 持続的な企業価値向上へ



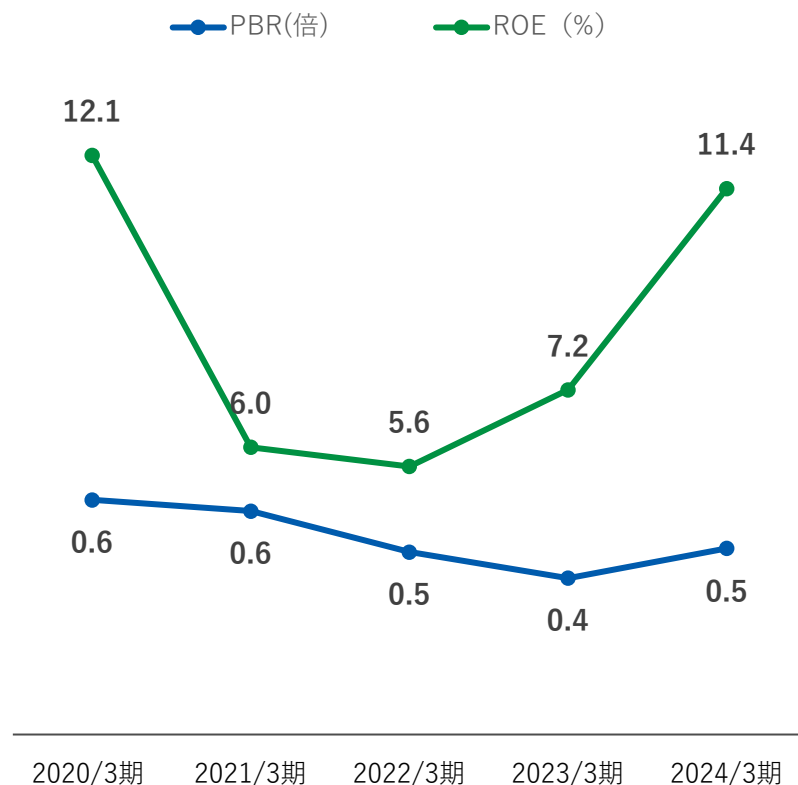
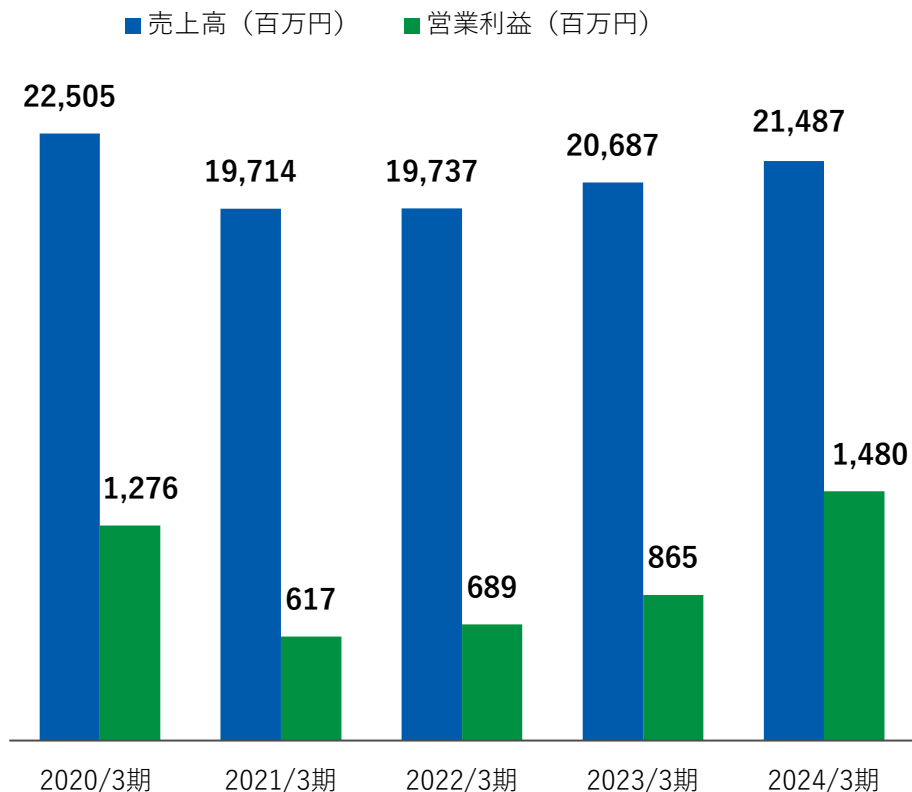
## 資本コストや株価を意識した経営 の実現に向けた対応について

## 現状分析

- 直近5年間の業績は2021年3月期を底に売上高・営業利益ともに増加傾向にある
- それに伴いROEは改善しているもののPBRは現状1.0倍を下回っている

## 要因

- 事業ドメインが国内のみで、かつ単一セグメントのためマーケットが期待する成長戦略が描き切れていない
- シャッター・ドア市場は寡占市場であるが受注競争による価格競争のため利益に波が発生しやすい
- 時価総額が小さく、流動性が低いため投資家の投資対象となりにくい



## 具体的施策

### 成長戦略の推進

- 他社との差別化と収益力の向上
  - ・ユーザーとの協働による製品開発、特徴ある製品群をマーケットに投入
  - ・EC市場の新規開拓
  - ・独ハーマン社や国内各社との共同開発、OEM製造販売の積極的な推進

### ROE維持向上

- ROE10%以上の維持向上を意識した経営戦略を推進

### 株主還元への一層の取組み

- 配当性向目標を30%に引き上げ

### IR活動の強化

- 投資家向けに訴求力のあるわかりやすいホームページへ刷新
- 認知度向上と流動性を高めるため個人投資家向け説明会の開催予定
- 対話を希望される機関投資家には従来通りその機会を丁寧に提供

**TOYO**Shutter

その他トピックス

---



## 止水ドア（TSウォータータイト避難可能タイプ）

日常時

通常ドアと同じ使い勝手



非常時  
(水害時)

追加操作なしに止水を実現



アップグレード

止水しながらドア上部が開きより避難が可能に



緊急時の追加操作不要



特許技術の止水ゴム採用

### 第3回フェーズフリーアワード2023 事業部門BRONZE 賞受賞

TSウォータータイトは、一般社団法人フェーズフリー協会が主催する「フェーズフリーアワード2023」事業部門において、BRONZE 賞を受賞いたしました。

### 特長

- 緊急時の追加操作不要（一般社団法人フェーズフリー協会による『フェーズフリー認証』※を取得）
  - ゲリラ豪雨による河川の氾濫など、予測不可能な浸水被害が発生しても緊急時も追加操作が不要
  - 避難時は固定金具により扉の連結を解除することで避難が可能
- 止水高さ
  - 止水高さ1.0m以下に対応
- 広い開口部にも対応
  - 片開きのほか、2mの広い開口部に対応する両開きも設定
- 特許技術の止水ゴム採用
  - 独自開発の特殊なヒレゴムで、SATドアに高い止水性能を付加
- 高い意匠性を実現
  - 特許技術の止水ゴム採用で、SATドアと同じ納まり(40mm)のまま、止水性能を実現

※：一般社団法人フェーズフリー協会の審査により、平常時や災害時などのフェーズに関わらず、役立つ商品・サービスに与えられる認証



## 高速シートシャッター (シュネルマイスターコンパクトタイプ)

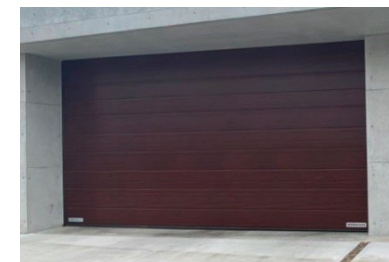
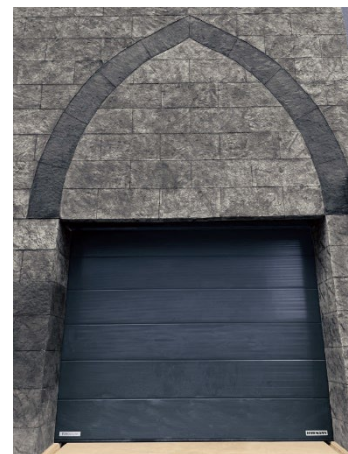
高速シートシャッター  
シュネルマイスター  
コンパクトタイプ



### 特長

- 工場や倉庫の頻繁な搬入作業に高速スピード開閉で対応する高速シャッター
- 高速スピード開閉により省エネ効果・作業効率のアップが期待されるとともに、安全面での機能は大変重要なポイント
- 独自の安全機能を備えた高速シートシャッターは不測の事故を未然に防ぎ、また万が一の場合においてもその被害を最小限にとどめ、工場や倉庫の作業環境を安定的に維持

## 住宅用ガレージドア (シュネルスピッツ)



### 特長

- ウレタン充填パネルによる優れた断熱性、耐風圧性、静音性
  - パネルは内部に発泡ウレタンを充填した2層スチールパネル構造。断熱性、耐風圧性能に優れるほか、開閉時の静音性にも効果
- ヨーロッパのスタイリッシュなパネルデザイン
  - パネルのデザインは3種類あり、それぞれに適用されるパネル形状とカラー
- ガレージでの使用を考慮した高い安全性能
  - スプリング安全装置を内蔵したスプリング技術
  - ドアトラックローラー
  - パネルの指詰め防止
  - 自動ロックシステム

**TOYO**Shutter

appendix

---

- 当社主力商品であるシャッター・ドアは、主に社会の防犯、防火、防煙、防水などとしての役割を担い、お客様の生命はもとより財産を守ることで、安全・安心・快適・感動を提供



## 安全・安心・快適・感動を提供する商品開発

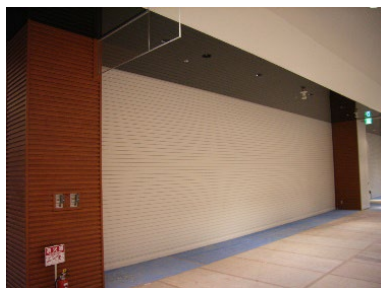
当社商品は、防犯、防火、  
防煙等の用途で使用されることが多い



お客様の生命はもとより財産を守ることで、  
快適、感動を与え続ける企業であり続ける



管理用シャッター  
(防犯・耐風・防雨用)



ウルトラワイド  
(大型防火防煙シャッター)



TSウォータータイト  
(止水ドア)

- 環境負荷を減らす取り組みを実施
- 地域社会と持続的に交流をもち、持続可能な経済社会へ貢献

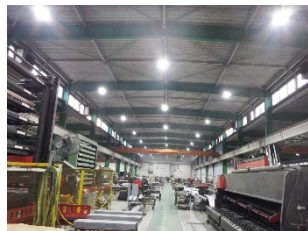


## 環境保全活動

## 社会貢献活動

- 生産工場における照明のLED化推進
- 製品塗装の一部に特定化学物質を含まない「特化則フリー」塗料を使用
- つくば工場近辺における環境美化活動への参画
- フォークリフトを環境負荷の少ないバッテリー式へ切り替え推進
- 社用車のEV・PHV車への入れ替えを開始

- 毎年、工場近辺の中学生・高校生向けに工場見学、インターンシップ受入を実施
- 大学に対する特別講義への要員派遣及び生徒支援募金への協力
- 令和6年能登半島地震の復興のため、日本赤十字社へ募金
- つくば工場近辺において献血活動への参画
- 独立行政法人日本学生支援機構が発行するソーシャルボンドへ投資
- 大阪府内の市町村と災害発生時の応援協定を締結
- 飛鳥ハーフマラソン（2024年3月開催）への協賛



九州工場 LED照明導入



EV社用車導入



奈良工場見学

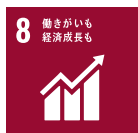


帝塚山大学での特別講義



飛鳥ハーフマラソンに記念撮影ブースを開設

- 全従業員に寄り添った取り組みを通じて、職場環境の改善に努める
- 全従業員が各種規範・法令を遵守する体制を整え、公正で健全な企業活動を推進



## より良い職場環境に向けた取り組み

## 公正な企業活動を

- 男性従業員の育児休業の取得率向上  
(2022年度12.5%→2023年度50%)
- ストレスチェックを全拠点で実施  
(2022年度93%→2023年度97%)
- 外部の健康相談窓口を設置
- 会社が認める資格を有する社員には、毎月の給与に資格手当を加算
- 時間単位有給制度を導入し、フレキシブルな勤務体制が可能
- 社内に「施工研修センター」を設置

- TS役職員行動規範を制定し、コンプライアンス勉強会を継続的に実施
- 効果的な内部通報制度の設置やハラスメント指針を制定

商号	東洋シャッター株式会社
設立	1955年9月10日
資本金	20億2,421万円
株式市場	東証スタンダード市場 (No.5936)
本店所在地	大阪市中央区南船場2丁目3番2号 南船場ハートビル12F
代表者	代表取締役社長 岡田 敏夫
従業員数	518名 (2024年3月末連結)
事業所	2本社、10支店、1営業部、57営業所・メンテナンスセンター その他特約店、取次店全国主要都市
製造施設	奈良工場、つくば工場、九州工場
子会社	南東洋シャッター株式会社

1955年 9月	大阪市西淀川区でシャッターの販売を目的として創業
1973年 10月	東京本社を東京都中央区に開設し、二本社体制
1987年 10月	(株)日本シャッター製作所と合併 九州支店、鹿児島支店、枚方工場、九州工場、(株)南日本シャッター製作所を継承
1989年 2月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
1989年 9月	東京証券取引所および大阪証券取引所の市場第一部に指定替え
1993年 3月	つくば工場を新設し、土浦工場を閉鎖
2000年 5月	枚方工場を閉鎖し、奈良工場に集約。九州工場を鹿児島に集約移転
2003年 7月	大阪市中心区南船場に本社移転
2011年 2月	独ハーマン社と資本・業務提携契約締結
2012年 5月	中期経営計画「JUMP UP 3」を策定
2015年 5月	中期経営計画「POWER UP 3」を策定
2018年 5月	中期経営計画「BRUSH UP 3」を策定
2021年 5月	中期経営計画「BRUSH UP 3+1（プラスワン）」を策定
2022年 4月	東京証券取引所スタンダード市場に移行
2022年 5月	中期経営計画「TOYO REBORN 3」を策定

この資料には、当社の業績や事業計画などに関する将来的予想を示す記述および資料が記載されております。これらの将来的予想に関する記述および資料は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想です。実際の業績などは、今後の経済動向、その他の社会・政治情勢等様々な要因により、記述されている将来予想とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2024年6月